

# 発刊にあたって

杉本 時哉 (協同総合研究所理事長)

昨年秋の「協同集会」は、「21世紀の協同へ 東北からの発信」の目的・意図を見事に果たし、素晴らしい成功を収めることが出来ました。この集会にご参加いただいたすべての方々、さらにこの集会の準備、進行を支えて下さったすべての方々に、あらためて心から感謝申し上げます。多くの人々がこの集会を通じて、人間としての共感、明日の協同への意欲を語り合っているのを、嬉しくお聞きしています。そしてすでに明日の協同への日常的なネットワークづくりに発展していることを心強く思っています。

この『協同の発見』誌は、「いま『協同』を問う'96全国集会」の総括報告を特集して皆さんにお贈りするものです。紙面に限りがあり集会のすべてを再現することは叶いませんが、集会に参加できなかった会員の方々はもちろん、21世紀に向う人類社会の在り様を心配し模索されているすべての人々に、この集会が生み出した希望と決意、共感を少しでもわかちあい、ご理解いただく一助になれば幸いです。

初めて「協同集会」の実行委員長の役割を与えられ、協同総研としては1年前から準備を開始したものの、正直なところ当初予定した実行委員会方式が一向に実らず、私自身は果して成功させることが出来るかと密かに心配し続けていました。しかし、2～3カ月前から事態は急速に変化しました。その変化の過程を共にして私自身多くを学び、集会そのものも、これまでの協同集会の積み重ねの上に、新たな質、発展を見せたのです。集会の終わった今では、しみじみと大きな感動を噛みしめているところです。

では、この集会の成功、新たな質、発展とは何だったのか？

もちろん、AARPのJ. パーキンス氏や井上ひさし氏というメインの素晴らしい報告、講演をいただいたこともあります。そしてそれが高齢者社会、協同の社会へのメッセージとして大きな意義を添えられたことは疑いありません。

同時に、今回の協同集会が労働者協同組合の地域事業団とセンター事業団の深く強い結びつきをいっそう固め、さらに東北のNPO組織とその活動のネットワークの多くの人々との出会いによって、新たな協同を広げる中で準備されたことです。途中から「東北からの発信」と呼称を変更させた東北の人々の力強い意欲に、教えられたことを心から感謝せずにおれませんでした。

人々が、共通の一つの目標に向かって協同して取り組むその見事な結晶は、その成功を共に喜ぶ嬉しさとともに、苦勞を共にする中での新しい信頼の絆と、人間それぞれの成長、新たな認識の獲得を生み、まさに21世紀に立ち向かう勇気と希望を育ててくれた。そういう思い、感動を噛みしめています。

世の中の古い体制は、行き詰まった政治・経済・社会の危機を、焦りとともに相変わらず表面的な計数だけ、人間無視のリストラに頼って打開しようとしています。その道に展望が有る筈がありません。今回の仙台「協同集会」が示した「生命・労働・地域の再生」の人間の協同の力こそが、この世紀末の混迷から人類社会を再生させる、本当の力強い解答である。そういう確信をお互いに確かめあって、新しい年を21世紀に向かう更なる一歩として踏み出す決意をお伝えして発刊の言葉とします。